

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

いわゆる職人の技は、近現代とは違って、個人名とともに記憶されることが少なかったわけです。それはいつ変化したのでしょうか。

ルネサンスが画期となったと考えられます。文芸復興とか人間主義とか呼ばれるこの時代から、意識は神から人間へとシフトしていきました。芸術作品も誰の作品かということが重要になりました。それ以降、私たちは、宗教的作品であっても、ミケランジェロの～とかラファエロの～というように、個人名とともに鑑賞するようになったのです。

そして近現代には「世俗化」という過程が進み、古代中世にみられたような宗教的なテーマは、とくに美術の世界からはどんどん影をひそめていきました。個人の無意識や夢といった心象風景がテーマとして主流を占めるようになります。

そのような時代にあって、ルオーは、現代人として宗教画を描いたといえるように思われます。古代のように、様式に縛られてはいませんが、ひたすら「聖画」を描き続けたのは、近現代の有名なアーティストとしては特異なことです。彼は子供の頃ステンドグラスの職人になりたかったと伝えられていますから、職人的・没個人的な思いで「宗教画」に取り組んでいたのかもしれませんが。

ルオーはバチカンに自分の作品を寄贈したことで知られています。人が彼を「宗教画家」だと思っただけでなく、彼自身も古の宗教画家のように、教会に作品をささげたというわけです。現代においてもなお、神のための芸術作品製作が可能であることの稀有な例といえます。[Y. T.]

#### 【クリスマス礼拝に向けての讃美練習】

12月18日の大学礼拝はコンサート形式で行われます。礼拝後にオルガンのところで練習するほか、12月には吹奏楽団や室内楽団と一緒に練習も行われます。自由にご参加ください。

#### 【次回の大学礼拝】2018年11月27日（火）10時40分

次回の礼拝では松居友氏（児童文学者・絵本作家・フィリピン・ミンダナオ図書館主宰）が奨励をしてくださいます。お集まりください。

#### 【前々回の大学礼拝】2018年11月6日（火）

学生187名 教職員ほか8名 合計195名

#### 【前回の大学礼拝】2018年11月13日（火）

学生161名 教職員ほか10名 合計171名

## 【大学礼拝週報】2018年度 第24号（後学期第9号）

2018年11月20日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

### 《大学礼拝》

司 式 高橋優子（キリスト教学教員）  
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）  
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「イエスはわが喜び」（バイエル作曲）

讃美歌 讃美歌90番（ここも神の御国なれば）

聖書 ヤコブの手紙1章22-25節

祈り

さんび

酪農学園大学聖歌隊

奨励 「イランカラプテ～そっと触れていく中で～」

肥田信長（とわの森三愛高等学校宗教部長）

報告

讃美歌 讃美歌380番（立てよ、いざ立て）

後 奏 「わが心の底より」（メッツラー作曲）

### 【本日の聖書】ヤコブの手紙1章22-25節

<sup>22</sup>御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけ終わる者になってはいけません。<sup>23</sup>御言葉を聞くだけで行わない者がいれば、その人は生まれつきの顔を鏡に映して眺める人に似ています。<sup>24</sup>鏡に映った自分の姿を眺めても、立ち去ると、それがどのようなであったか、すぐに忘れてしまいます。<sup>25</sup>しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめ、これを守る人は、聞いて忘れてしまう人ではなく、行う人です。

### 【ジョルジュ・ルオーの「宗教画」】

現在東京でジョルジュ・ルオーの展覧会が行われています。20世紀の宗教画家と言われるジョルジュ・ルオーはカトリックの敬虔な信者で、独特の画風を確立しつつ、「聖顔」（イエスの顔）を何枚も残しています。

そもそも芸術とはすべて神を讃えるために生じたものです。音楽、美術、文学などの作品は、大昔から存在していたはずですが、古代から中世にかけての著作者の名前はほとんど残っていません。それは、近代より前の世界においては、著作者が誰かということは問題にならなかったからです。